



NO.85

Jul. 2026

IST NEWS

第85号 (令和8年7月号)

なぜ研究をするのか

メディアネットワーク部門 准教授 澤山 正貴

なぜ研究をするのか。回答は人それぞれ違うだろう。する必要はないという回答もいいのだと思う。大学院を出ておくと就職に有利なので、修士号を獲得するためにカリキュラムとして何かしらの研究をする必要がある、というのもひとつの回答かもしれない。さて、教員である私は何か尤もらしい回答を持っているだろうか。原稿執筆の機会をいただいたこの場を用いて考えてみよう。

いくつか思い当たることがある。ひとつは、好奇心という中毒に襲われているからだ。これはなかなか厄介だ。私は人間の視覚情報処理を調べている研究者だ。ブラックボックスの情報処理というのは、うまく動いているときには機能がわかりにくく、たまに起こるエラーを解析するのが機能を調べる常套手段だ。人間の場合も同じである。自分の眼を開いて、脳が起こすエラーを自分で探す。言わば、認識世界のバグを探すデバッガーと言えよう。そして、困ったことにちゃんと観察すると、認識世界なんてバグだらけだ（注：効率的な情報処理とも言えるが）。なんなら眼を開けばいつも不思議が襲ってきて早く不思議を解けと私を掻き立てる。好奇心が襲ってくるのだ。昨今はAIがあれば研究することがないという意見もよく聞くがとんでもない。襲ってくる好奇心をもっと勝手に打ち払ってくれと私は日々願っている。

もうひとつは、研究をしていると時を超えることができるからだ。私は人間というシステムに大きな不満がひとつある。それは寿命が短すぎることだ。せめて数百年は生きたい。物語の悪役が永遠の命を望む気持ちが私はとてもよくわかる。あれは作者の切なる願いだと思う。それが、研究という名の人類知の積み重ねにおいては、我々の寿命の短さを超越することができるのだ。一世代じゃ作れないものが、人類の歴史の中で開発まで進む。数百年前のニュートンの時代には光

の分光特性についての基礎研究だったものが、我々の世代ではあらゆる表示デバイスのRGB表示としてメディア研究の礎になっている。我々は研究をするとき数百年、数千年前、そして数百年、数千年先の人間と対話している。この大きな河の流れに自分が存在していると気付くと、河の流れを未来に繋ぐことが僅かしかない自分の寿命の中ですべきことなのではないかと思えてくる。実際には何ができたかを伝えられなくてもいい。何をしたら何ができなかったかを伝えるのもいい。数百年先のための基礎研究を今してもいいし、数百年積み重ねたものによる応用研究を今してもいい。こんなに短い人生なのだからもっと大きな人類のことを考えていたい。研究をするとその視点を持ち続けやすくなる。それに、そう考えていれば世界がもう少し平和になることを望む人間になれるかもしれないと、淡い期待として思う。

以上がなぜ研究をするのかという疑問に対する私なりの回答である。実利から少し離れているように見えるかもしれないが、この大義は局所的には実利へと結びつく。あなたが今困っていることはきっと数百年先の誰かも困っている。あなたが今困っていることの根本的な解決は、未来人にとってもきっと役に立つものだろう。なので、何か役に立つ技術ができたなら、手法を石にでも刻んで未来に届けるといい。研究というのはそうやって積み重なっていると私は思う。そうしようと思った時、数百年先まで届けられる研究とは何だろうという発想も自然と生まれてくる。私は日々、そんなことを考えながら研究をしている。

おそらく、情報科学研究院の各教員はそれぞれ異なる価値観を持っていて、それぞれ違う理由で研究をしているだろう。学生は研究室選びに迷ったら、各教員に「なぜ研究をするのですか？」と尋ねてみて、自分の価値観に近いところを選ぶというのもひとつの方法かもしれない。

令和7年度北海道大学情報科学院「学院長賞」

情報科学院では、学院学生への顕彰制度として北海道大学情報科学院「学院長賞」を設けています。

この度の「学院長賞」授与者は、修士課程5名、博士後期課程3名でした。



【学院長賞】

情報理工学コース修士課程	大西 雄真
情報エレクトロニクスコース修士課程	新井 文也
生体情報工学コース修士課程	平澤さつき
メディアネットワークコース修士課程	佐藤 雅也
システム情報科学コース修士課程	柳井 雅貴
情報理工学コース博士後期課程	吉野 夏樹
生体情報工学コース博士後期課程	劉 言恩
メディアネットワークコース博士後期課程	村椿 太一

令和8年度大学院入学者数

令和8年度北海道大学大学院情報科学院入学者数は次の表のとおりです。

令和8年度入学者数

専攻	定員	入学者数
情報科学	196	208 [17]
	43	42 [11] ⑥

- ・ 上段：修士課程、下段：博士後期課程
- ・ []：留学生（内数）
- ・ 丸囲み数字：社会人入試（内数）

新しい大学院生に贈る言葉

新入生の皆さん、入学・進学おめでとうございます。

令和8年4月、本大学院情報科学院は、修士課程208名、博士後期課程42名の新入生を迎えることとなりました。

本学院には、情報科学に関する五つのコース、情報理工学コース、情報エレクトロニクスコース、生体情報工学コース、メディアネットワークコース、システム情報科学コースが設置されています。皆さんは、所属コースの専門科目を主専修として深く学ぶとともに、他コースの科目を副専修として履修する「双峰型教育カリキュラム」により、情報科学の幅広い知識を体系的に身につけることができます。

さらに、すべてのコースにおいて、プロジェクトマネジメントを学ぶ実践型科目や、本学院と連携するマサチューセッツ大学アマースト校およびシドニー工科大学の教員による英語での国際連携情報科目を履修することが可能です。また、本学院には五つの連携分野が設けられており、北海道大学以外の研究機関に所属する研究者による講義や研究指導も受けることができます。このように、本学院は基礎研究から社会実装に至るまでを視野に入れた、充実した学習・研究環境を提供しています。

本日入学された皆さんは、生成AIやフィジカルAIに代表される人工知能技術、あるいはそれを支える半導体・情報メディア・ネットワーク技術、さらには応用分野である生体工学やシステム工学など、それぞれに志す研究領域をお持ちのことでしょう。現在は空前のAIブームといわれていますが、AIにもかかわらず「冬の時代」がありました。

現在のAIの発展は、深層ニューラルネットワーク（DNN）の進展に端を発しています。その原点は、80年以上前の1943年に神経生理学者であるWarren Sturgis McCullochと数学者であるWalter Harry Pitts, Jr.により提唱された形式ニューロン（formal neuron）にさかのぼります。さらに1958年にはFrank Rosenblattがパーセプトロンを提案し、1986年にはDavid Everett Rumelhart、Geoffrey Everest Hintonらが多層パーセプトロンの教師あり学習法である誤差逆伝搬法（backpropagation）を確立しました。これにより、DNNを用いた深層学習（deep learning）の基礎が出来上がりました。しかしパーセプトロンで中間層を2層以上にすると学習がうまくいかず、中間層が1層では解ける問題は限定され、希望は失望に変わり、AIは冬の時代を迎えます。その停滞を打破したのが、2006年にGeoffrey Everest Hintonが発表した積層自己符号化器（stacked autoencoder）の研究です。これによりニューラルネットワークの多層化が現実的となり、学習能力は飛躍的に向上し、現在のAIブームへとつながっています。この功績によりGeoffrey Everest Hintonは、連想型ニューラルネットワークを発明したJohn Joseph Hopfieldとともに2024年にノーベル物理学賞を受賞しています。誤差逆伝搬法の開発からニューラルネットワークの多層化まで、実に20年の歳月を要しています。

皆さんがこれから取り組む修士研究や博士研究においても、停滞を経験することは決して珍しいことではありません。しかし、その原因となる課題に粘り強く向き合い、試行錯誤を重ねることで、やがて突破口は開かれます。研究とは、停滞とブレークスルーの連続であり、その積み重ねによって科学は発展してきました。困難を乗り越えた経験は、必ず皆さんの生涯の財産となることでしょう。皆さんには、ぜひ学生時代に、そのような困難を乗り越えるという経験をしてもらいたいと思います。

また、大学院は学問・研究の場であると同時に、人と人が出会う場でもあります。日々の研究生活の中で、先輩や同級生、後輩との交流、企業や他機関の研究者との共同研究、学会での出会いなど、さまざまな縁が生まれます。それら一つ一つの出会いを大切にしてください。そうしたつながりもまた、皆さんの人生を豊かにする大きな財産となります。

皆さんが本学院において、学問と研究の醍醐味を存分に味わい、困難を乗り越えながら成長し、多くの出会いの中で自らの可能性を広げていかれることを心より願い、私からのお祝いの言葉といたします。



【左列】5コース長、【右列】両副研究院長、工学系事務部長
（本記事は、4月3日に举行された情報科学院入学式での学院長挨拶に基づき、新規に書き下ろしたものです。）

（情報科学院長 近野 敦）

長谷山美紀教授が「春の園遊会」に出席

令和8年4月17日（金）、メディアネットワーク部門長谷山美紀教授が赤坂御苑（東京都港区）で開催された春の園遊会に招かれ出席しました。

園遊会は天皇后両陛下が主催され、毎年、春と秋の2回、赤坂御苑で開かれています。

今回の園遊会には、立法・行政・司法各機関の要人、都道府県の知事・議会議長、市町村の長・議会議長、各界功績者など、約1750人が招待されました。

長谷山教授のコメント

天候にも恵まれ、両陛下をお迎えするまでの間、参列の皆様との交流や御苑の豊かな自然に触れる貴重な時間を過ごしました。池に映える満開の藤は格別で、学究の日々を離れ伝統的な庭園美を楽しむ機会となりました。両陛下や皇族方の温かなおもてなしを間近に拝見し、誠に感銘深い経験となりました。



赤坂御苑菖蒲池前にて



満開の藤棚を背に、渡海紀三朗衆議院議員（元文部科学大臣）とともに



開宴を待つひととき、小林茂樹衆議院議員（文部科学副大臣）とともに



赤坂御苑の風景

（メディアネットワーク部門 教授 長谷山 美紀）

【人事異動】

〔教授〕

情報科学研究院（定年退職）令和8年3月31日	
今 井 英 幸	情報理工学部門 数理科学分野
情報科学研究院（昇任）令和8年4月1日	
Amir Houmansadr	メディアネットワーク部門 ビッグデータとIoTに関する協同センター
Subhransu Maji	メディアネットワーク部門 ビッグデータとIoTに関する協同センター
Mehran Abolhasan	メディアネットワーク部門 ビッグデータとIoTに関する協同センター
Justin Lipman	メディアネットワーク部門 ビッグデータとIoTに関する協同センター

〔准教授〕

情報科学研究院（定年退職）令和8年3月31日	
河 口 万由香	情報理工学部門 数理科学分野
田 中 文 基	システム情報科学部門 システム創成学分野
情報科学院（退職）令和8年3月31日	
電子科学研究所 片 山 司	情報科学専攻 情報エレクトロニクスコース
電子科学研究所 渋 川 敦 史	情報科学専攻 情報エレクトロニクスコース
情報科学研究院（採用）令和8年4月1日	
米 沢 安 成	システム情報科学部門 システム創成学分野
情報科学院（昇任）令和8年4月1日	
情報基盤センター 近 藤 賢 郎	情報科学専攻 情報理工学コース
Diep Ngoc Nguyen	メディアネットワーク部門 ビッグデータとIoTに関する協同センター
Negin Shariati Moghadam	メディアネットワーク部門 ビッグデータとIoTに関する協同センター

〔助教〕

情報科学研究院（定年退職）令和8年3月31日	
西 村 生 哉	生命情報科学部門 バイオエンジニアリング分野
松 下 昭 彦	システム情報科学部門 システム創成学分野
情報科学研究院（採用）令和8年4月1日	
劉 怡 君	情報エレクトロニクス部門 先端エレクトロニクス分野
櫻 井 慶 悟	メディアネットワーク部門 情報メディア学分野

〔特任教授〕

情報科学研究院（任期満了退職）令和8年3月31日	
小野里 雅 彦	システム情報科学部門 システム創成学分野
情報科学院（退職）令和8年4月30日	
情報基盤センター 高 井 昌 彰	情報科学専攻 情報理工学コース

〔特任准教授〕

情報科学研究院（再雇用）令和8年4月1日	
河 口 万由香	情報理工学部門 数理科学分野
田 中 文 基	システム情報科学部門 システム創成学分野

〔特任助教〕

情報科学研究院（採用）令和8年4月1日	
小 倉 有紀子	情報理工学部門 複合情報工学分野

〔事務職員等〕

〔辞職〕令和8年3月31日	
高 垣 万里奈	会計担当
〔転出〕令和8年3月31日	
船渡川 翔 太	総務担当 (病院管理課 (医薬品担当) へ)
久 保 吉 史	広報・情報室担当技術専門職員 (土木工学研究部門へ)
〔転入〕令和8年4月1日	
伊 藤 健 人	総務担当 (経済学事務部 (庶務担当) より)
吉 田 早 織	会計担当主任 (財務部調達課主任 (物品契約担当) より)
角 井 博 則	広報・情報室担当技術専門職員 (工学系技術センター技術部情報管理室より)

〔受賞等〕

〔教員〕

2025年11月22日	平田 拓
生命人間情報科学部門バイオエンジニアリング分野教授	
一般社団法人電子スピンスサイエンス学会 学会賞 「4次元スベクトル空間電子常磁性共鳴分光イメージング技術の開拓と生物医学分野への応用」	
2026年1月20日	山下 倫央 ¹⁾ 、金井 理 ²⁾
1) 情報理工学部門複合情報工学分野准教授 2) システム情報科学部門システム融合学分野特任教授	
国土交通省、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省、防衛省 第9回インフラメンテナンス大賞内閣総理大臣賞 「豪雪地の交通インフラ維持を図る除雪支援の取組」	

〔学生〕

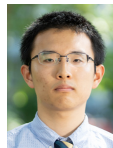
2025年11月22日	大場 光紗
情報科学専攻生体情報工学コースD2	
一般社団法人電子スピンスサイエンス学会 優秀発表賞 「750MHz CW-EPRとOX071による緩和時間推定に基づくpO2計測法の開発」	
2025年12月20日	進藤 稜真
情報科学専攻メディアネットワークコースM2	
International Joint Conference on Natural Language Processing & Asia-Pacific Chapter of the Association for Computational Linguistics, 2025 Student Research Workshop (IJCNLP-AACL 2025 SRW). Best Paper Award. 「To What Extent Can In-Context Learning Solve Unseen Tasks?」	
2025年12月24日	蒔田 安里
情報科学専攻生体情報工学コースM2	
第48回日本分子生物学会年会 MBSJ Poster Award. 「全ゲノムデータを用いたクマズミ種複合体の系統関係と日本への移入経路の解明」	
2026年2月5日	岡崎 凌大
情報科学専攻情報エレクトロニクスコースD3	
一般社団法人電気学会 電気学会優秀論文発表賞 「対向発散磁界下誘導結合プラズマにおけるドリフト速度の橋円軌跡と電子エネルギー利得波形のk平均法クラスターリング観察」	
2026年2月16日	山田 海俊
情報科学専攻システム情報科学コースD1	
公益社団法人計測自動制御学会システムインテグレーション部門 SI2025優秀講演賞 「副鼻腔内体積変化を指標とした内視鏡下副鼻腔手術訓練の学習曲線解析」	
2026年3月4日	有田 結子
情報科学専攻生体情報工学コースM2	
Genomic Big Bang 2026 (Tainan). Merit Award. 「Single-cell analysis of the Alveolar environment involved in influenza severity」	
2026年3月4日	北原 琉乃 ¹⁾ 、鋸野 高 ²⁾
1) 情報科学専攻生体情報工学コースM1 2) 生命人間情報科学部門バイオエンジニアリング分野教授	
Institute for Systems and Technologies of Information, Control and Communication. Best Student Paper Award (19th International Conference on Biomedical Electronics and Devices). 「Microfabricated In Vitro Platform for Characterizing Cellular Calcium Dynamics During Ultrasound Neuromodulation Using Calcium Indicators」(超音波神経修飾下におけるカルシウム指示薬を用いた細胞内カルシウム動態評価のためのin vitro微細加工デバイス基盤)	
2026年3月5日	佐藤 拓海
情報科学専攻情報理工学コースM1	
The 20th International Conference and Workshops on Algorithms and Computation (WALCOM 2026). Best Student Paper Award. 「Forcing a unique minimum spanning tree and a unique shortest path」(最小全域木と最短路の一貫化問題)	

2026年3月10日	コン ヒョンジュン
情報科学専攻情報エレクトロニクスコースD2	
The 5th Workshop on Functional Material Science. Poster Award. 「Controlled hydrogen incorporation in In ₂ O ₃ thin-film transistors using In(OH) ₃ ceramic targets and their feasibility on flexible mica substrates」(In(OH) ₃ セラミックターゲットを用いたIn ₂ O ₃ 薄膜トランジスタへの水素混入制御及びフレキシブルマイカ基板上での実現可能性の確認)	
2026年3月10日	吉村 充生
情報科学専攻情報エレクトロニクスコースD1	
The 5th Workshop on Functional Material Science. Best Poster Award. 「Thermal conductivity of rare earth sesquioxide Ln ₂ O ₃ 」(希土類酸化物Ln ₂ O ₃ の熱伝導率)	
2026年3月10日	山口 彪斗
情報科学専攻情報エレクトロニクスコースM1	
一般社団法人電子情報通信学会 未来60年賞奨励賞 (ファイナリスト8名) 「痛みを知るアバター: 侵害受容フィードバックによる自己保護テレグジスタンス」	
2026年3月12日	平岡 太規
情報科学専攻情報理工学コースM2	
一般社団法人言語処理学会 年次大会若手奨励賞 「LLMへの軽量ベクトル介入による金融センチメント制御」	
2026年5月22日	高瀬 央雅
情報科学専攻情報理工学コースM1	
一般社団法人電子情報通信学会応用音響研究会 学生研究奨励賞 「雑音情報に基づく初期化を導入した多チャネルNMFによる音楽音響信号の音源分離」	
2026年5月28日	谷山 慶太
情報科学専攻情報エレクトロニクスコースD1	
The 2026-edition of Compound Semiconductor Week (CSW2026). CSW2026 Best Student Paper Award. 「Selective-area growth of InGaAs and InAs nanowires on Si using SiON/W/SiO ₂ composite mask for vertical multi-mode transistor」	

※職名・学年・所属は受賞時

情報科学研究院 新任教員紹介

1. 最終学歴および学位、2. 専門分野



米沢 安成 准教授

システム情報科学部門 システム創成学分野

1. 令和5年北海道大学大学院工学院人間機械システムデザイン専攻博士後期課程修了、博士(工学)
2. 制御工学、最適化



劉 怡君 助教

情報エレクトロニクス部門 先端エレクトロニクス分野

1. 令和8年東京大学大学院工学系研究科先端学際工学専攻博士後期課程修了、博士(工学)
2. 伸縮性電子材料、電子皮膚、ウェアラブル健康管理システム



櫻井 慶悟 助教

メディアネットワーク部門 情報メディア学分野

1. 令和7年北海道大学大学院情報科学院情報科学専攻博士後期課程修了、博士(情報科学)
2. 推薦システム、データマイニング、ファイナンス、音楽情報学



小倉 有紀子 特任助教

情報理工学部門 複合情報工学分野

1. 平成26年北海道大学大学院生命科学院博士課程修了、博士(生命科学)
2. 社会心理学、精神神経科学、基盤脳科学、動物生理化学、生理学、行動学、神経科学一般

令和8年度情報科学研究院・情報科学院 部門長、コース長及び各種委員会委員等一覧

●部門長・副部門長／コース長・副コース長

部門／コース名	部門長／コース長 (任期：1年)	副部門長／副コース長 (任期：1年)
情 報 理 工 学	坂 本 大 介	松 原 崇
情 報 エ レ ク ト ロ ニ ク ス	竹 井 邦 晴	丸 亀 孝 生
生 命 人 間 情 報 科 学 〔 生 体 情 報 工 学 〕	遠 藤 俊 徳	岡 嶋 孝 治
メ デ ィ ア ネ ッ ト ワ ー ク	小 川 貴 弘	土 橋 宜 典
シ ス テ ム 情 報 科 学	野 口 聡	小 林 孝 一

●運営会議

職名	研究院運営会議 (職指定)	学院運営会議 (職指定)
研 究 院 長 ・ 学 院 長	近 野 敦	近 野 敦
副 研 究 院 長 ・ 副 学 院 長	浅 井 哲 也 田 中 章	浅 井 哲 也 田 中 章
研 究 院 長 補 佐	吉 岡 真 治 橋 本 晋 守 齊 藤 孝 聖 田 中 孝 之 佐々木 博 之	
事 務 部 長	佐 藤 哲 生	佐 藤 哲 生

●部門長会議／コース長会議

職名・部門／コース名等	部門長会議 (職指定)	学院コース長会議 (職指定)	学部コース長会議 (職指定)
研究院長・学院長〔副工学部長〕	近 野 敦	近 野 敦	近 野 敦
副 研 究 院 長 ・ 副 学 院 長	浅 井 哲 也 田 中 章	浅 井 哲 也 田 中 章	浅 井 哲 也 田 中 章
学 科 長			野 口 聡
副 学 科 長			松 原 崇
情 報 理 工 学	坂 本 大 介 松 原 大 介	坂 本 大 介 松 原 大 介	坂 本 大 介 (松 原 大 介)
情 報 エ レ ク ト ロ ニ ク ス	竹 井 邦 晴 丸 亀 孝 生	竹 井 邦 晴 丸 亀 孝 生	竹 井 邦 晴 丸 亀 孝 生
生 命 人 間 情 報 科 学 〔 生 体 情 報 工 学 〕	遠 藤 俊 徳 岡 嶋 孝 治	遠 藤 俊 徳 岡 嶋 孝 治	遠 藤 俊 徳 岡 嶋 孝 治
メ デ ィ ア ネ ッ ト ワ ー ク	小 川 貴 弘 土 橋 宜 典	小 川 貴 弘 土 橋 宜 典	小 川 貴 弘 土 橋 宜 典
シ ス テ ム 情 報 科 学	野 口 聡 小 林 孝 一	野 口 聡 小 林 孝 一	(野 口 聡) 小 林 孝 一

令和8年度情報科学研究所・情報科学院 部門長、コース長及び各種委員会委員等一覧

●常置委員会（研究院）

○委員長

職名・部門名等	将来構想委員会 (職指定)	質保証委員会 (任期：1年)	学術委員会 (任期：2年)
研 究 院 長	○近 野 敦	○近 野 敦	
副 研 究 院 長	浅 井 哲 也 田 中 章	浅 井 哲 也 田 中 章	○浅 井 哲 也
情 報 理 工 学	坂 本 大 介 松 原 崇	中 村 篤 祥	中 村 篤 祥
情 報 エ レ ク ト ロ ニ ク ス	竹 井 邦 晴 丸 亀 孝 生	末 岡 和 久	末 岡 和 久
生 命 人 間 情 報 科 学	遠 藤 俊 徳 岡 嶋 孝 治	舘 野 高	平 田 拓
メ デ ィ ア ネ ッ ト ワ ー ク	小 川 貴 弘 土 橋 宜 典	齊 藤 晋 聖	齊 藤 晋 聖
シ ス テ ム 情 報 科 学	野 口 聡 小 林 孝 一	北 裕 幸	萩 原 誠
研 究 企 画 室			(萩 原 誠)
教 育 企 画 室 (学 院)			小 柳 香奈子
事 務 部 長	佐 藤 哲 生	佐 藤 哲 生	
事 務 課 長	勘 原 和 彦		勘 原 和 彦

●常置委員会（学院）

○委員長

職名・コース名等	将来構想委員会 (職指定)	質保証委員会 (任期：1年)	学術委員会 (任期：2年)
学 院 長	○近 野 敦	○近 野 敦	
副 学 院 長	浅 井 哲 也 田 中 章	浅 井 哲 也 田 中 章	○田 中 章
情 報 理 工 学	坂 本 大 介 松 原 崇	中 村 篤 祥	中 村 篤 祥
情 報 エ レ ク ト ロ ニ ク ス	竹 井 邦 晴 丸 亀 孝 生	末 岡 和 久	樋 浦 諭 志
生 体 情 報 工 学	遠 藤 俊 徳 岡 嶋 孝 治	舘 野 高	平 田 拓
メ デ ィ ア ネ ッ ト ワ ー ク	小 川 貴 弘 土 橋 宜 典	齊 藤 晋 聖	西 村 寿 彦
シ ス テ ム 情 報 科 学	野 口 聡 小 林 孝 一	北 裕 幸	田 中 孝 之
教 育 企 画 室			(田 中 孝 之)
事 務 部 長	佐 藤 哲 生	佐 藤 哲 生	
事 務 課 長	勘 原 和 彦		勘 原 和 彦

令和8年度情報科学研究所・情報科学院 部門長、コース長及び各種委員会委員等一覧

●各室（研究院）

○室長

職名・部門名等	広報・情報室 (任期：2年)	安全衛生管理室 (任期：2年)	国際交流推進室 (任期：2年)	研究企画室 (任期：2年)
副 研 究 院 長	○浅井 哲也		○田中 章 浅井 哲也	○浅井 哲也
情 報 理 工 学	田村 康将	堀山 貴史	小林 靖明 杉本 雅則	小林 靖明
情報エレクトロニクス	山ノ内路彦	山ノ内路彦	徳永 裕己 アグス・スパギョ	徳永 裕己
生命人間情報科学	西川 淳		舘野 高 小柳香奈子	舘野 高
メディアネットワーク	前田 圭介		佐藤 孝憲 西村 寿彦	佐藤 孝憲
システム情報科学	妹尾 拓		萩原 誠 田中 孝之	萩原 誠
事 務 課 長	勘原 和彦	勘原 和彦	勘原 和彦	勘原 和彦

●各室（学院）

○室長（※進学・就職支援室においては◎室長○副室長）

職名・コース名等	広報・情報室 (任期:2年)	安全衛生管理室 (任期:2年)	国際交流推進室 (任期:2年)	教育企画室 (任期:2年)	進学・就職支援室 (任期:1年)	FD推進室 (任期:2年)	計算機室 管理運営室 (任期:2年)
副 学 院 長	○浅井 哲也		○田中 章 浅井 哲也	○田中 章		○浅井 哲也 田中 章	○田中 章
情 報 理 工 学	田村 康将	堀山 貴史	小林 靖明 杉本 雅則	杉本 雅則	松原 崇	肖 玲	脊戸 和寿
情 報 エ レ ク ト ロ ニ ク ス	山ノ内路彦	山ノ内路彦	徳永 裕己 アグス・スパギョ	アグス・スパギョ	○丸亀 孝生	浅井 哲也	浅井 哲也
生 体 情 報 工 学	西川 淳		舘野 高 小柳香奈子	小柳香奈子	岡嶋 孝治	長田 直樹	長田 直樹
メ デ ィ ア ネ ッ ト ワ ー ク	前田 圭介		佐藤 孝憲 西村 寿彦	西村 寿彦	◎土橋 宜典	ジエカ・ワカ	伊藤 敏彦
システム情報科学	妹尾 拓		萩原 誠 田中 孝之	田中 孝之	小林 孝一	伊達 宏昭	日下 聖
事 務 課 長	勘原 和彦	勘原 和彦	勘原 和彦	勘原 和彦	勘原 和彦	勘原 和彦	勘原 和彦
そ の 他							益山 直人

令和8年度情報科学研究院・情報科学院 部門長、コース長及び各種委員会委員等一覧

●工学部委員会委員情報エレクトロニクス学科

所属	コース長 (任期：1年)	教務委員会 (任期：1年)	学生委員会 (任期：1年)	入試委員会 (任期：1年)
副 工 学 部 長	近 野 敦			
全 学 教 務 委 員 会	田 中 章	田 中 章	田 中 章	田 中 章
情 報 理 工 学 コ ー ス	坂 本 大 介	河 口 万 由 香	野 田 五 十 樹	坂 本 大 介
電 気 電 子 工 学 コ ー ス	竹 井 邦 晴	富 岡 克 広	富 岡 克 広	竹 井 邦 晴
生 体 情 報 コ ー ス	遠 藤 俊 徳	西 川 淳	西 川 淳	遠 藤 俊 徳
メディアネットワークコース	小 川 貴 弘	山 本 学	日 景 隆	小 川 貴 弘
電気制御システムコース	野 口 聡	原 亮 一	小 林 孝 一	野 口 聡

●工学部広報室

情報エレクトロニクス学科 (任期：2年)	宮 原 英 之	安 藤 洸 太	西 川 淳
	伊 藤 敏 彦	比 留 間 真 悟	

●工学部 学科長・副学科長

学科	学科長 (任期：1年)	副学科長 (任期：1年)
情報エレクトロニクス学科	野 口 聡	松 原 崇

●工学部将来構想委員会委員 (情報科学研究院分)

副 工 学 部 長	近 野 敦
全学教務委員会委員(情)	田 中 章
学 科 長 (任期：1年)	野 口 聡

●全学教育「情報学」科目企画責任者

科 目 企 画 責 任 者 (任期：2年)	渡 邊 日 出 海
--------------------------	-----------

IST NEWS No.85 令和8年7月31日発行

発行：北海道大学
大学院情報科学院／情報科学研究院
広報・情報室



大学院情報科学院／情報科学研究院
ホームページ
<https://www.ist.hokudai.ac.jp/>